

1. 理事会からのお知らせ

(1) 代表理事挨拶

まだまだ暑い日が続きますが、TCER フェローの皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より、TCER の活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。

昨年度に引き続き早稲田大学が TCER の幹事校として運営を担当し、私が代表理事を努めさせていただいております。これまで同様、副代表理事の若田部昌澄教授、会計担当理事の有村俊秀教授とともに、TCER の活動を一層盛り上げるべく微力を尽くして参りたいと思います。また今年度より監事 1 名を交代する必要が生じたので、日本大学の宮里尚三教授にお引き受けいただくことになりました。

今年度も TCER の活動の核となるプロジェクトを実施して参ります。NBER などと協力して開催する東アジア経済セミナー、東アジア・アセアン経済研究センターからの委託事業、東芝国際財団の助成による研究者招聘支援などの国際的研究交流事業、ミクロ経済学・マクロ経済学の分野でのカンファレンス支援事業、若手研究者育成のためのジュニアワークショップなどです。研究プロジェクト助成事業では昨年度と同じく 11 件の応募があり、そのうちの 3 件に助成させていただくことにいたしました。緊急課題対応プロジェクトでは、昨年度まで実施してきた「検証・アベノミクス」の成果をまとめ、学術誌の特集号などで発信していく予定です。

TCER 定例研究会は早稲田大学にて開催しております。奮ってご参加ください。また、TCER ワーキングペーパーシリーズは SSRN の Research Paper Series や RePEc Archives に加入し、グローバルな研究の最前線に発信しています。是非ご活用ください。

最後になりますが、海外研究組織との交流や JJIE の発刊などご尽力いただいた青木昌彦教授が先日お亡くなりになりました。謹んでお悔やみ申し上げます。

今後とも、TCER の活動に対してご支援、ご協力くださいますよう、よろしく願い申し上げます。

小西秀樹（代表理事・早稲田大学）

(2) 2015年度前半の理事会報告

2015 年度第 1 回理事会は、2015 年 4 月 24 日（金曜日）午前 10 時～11 時 30 分、飯田橋の TCER 事務所において開催されました。平成 26 年度の事業報告書が承認されましたが、会計報告書は承認されませんでした。審議中に事務局の会計処理ミスが発覚し、そのため会計報告書を訂正した後に監査を再実施すること、書面決議の理事会で承認することが提案され、出席理事監事全員の賛同を得ました。田中隆一監事の辞任申し出を受け入れ、後任として宮里尚三氏（日本大学経済学部）を評議員会に推薦することが決定しました。また、規程に基づき 2015 年 5 月 26 日（火）10 時～11 時に日本工業倶楽

部にて評議員会を開催することが承認されました。

2015年4月30日、代表理事が、書面決議により訂正後の会計報告書を承認する件を提案し、全理事・監事に通知しました。5月8日、全員から承認の回答があり、平成26年度の会計報告書が承認されました。

(3) 2015年度前半の評議員会報告

2015年度第1回評議員会は、2015年5月26日（金曜日）午前10時～11時、日本工業倶楽部で開催されました。平成26年度の事業報告書及び会計報告書が承認されました。理事会にて推薦が決議された監事候補者の選任が出席評議員全員の賛同により承認されました。

(4) 追悼：青木昌彦先生

2015年7月15日、スタンフォード大学名誉教授青木昌彦氏が亡くなりました。TCER ニュースレターでは、通常はフェローの訃報を扱わない方針ですが、JJIEの創設や、NBERとの関係構築および共催コンファレンス事業の立ち上げにご尽力いただき、TCERに貢献されてきた青木先生については特別に、東京大学の岡崎哲二教授にお願いして、ここに追悼文を掲載することにいたしました。

青木昌彦先生を偲んで

7月16日の昼過ぎ、スタンフォード大学の星岳雄教授から青木昌彦先生が亡くなったというメールを受け取り、私はまず目を疑い、そして深い悲しみに包まれました。

その10日ほど前から私は青木先生に連絡をとろうと試みていました。8月上旬に京都で予定されていた世界経済史会議という学会で、青木先生に発表をお願いしていたためです。5月初めに青木先生から発表論文を送っていただいた際に、肺炎にかかったというお話がありましたが、心配はしていたものの、それほど深刻とは考えず、京都でお目にかかるのを楽しみしていました。それだけに突然の訃報に私は言葉を失いました。

青木先生は、1960年代、ミネソタ大学でノーベル経済学賞受賞者のレオニード・ハーウィッツ教授の指導をうけて経済計画理論に関する研究者としてアカデミックなキャリアを始められ、その後、経済システムにおける調整メカニズムの比較研究、経済システムを構成する企業組織に関する理論的研究に対象を広げて行かれました。そしてこれを踏まえて日米企業の比較研究を推進するとともに、ポール・ミルグロム教授等、スタンフォード大学の同僚研究者たちと、比較制度分析という新しい研究領域を開拓されました。それまで経済学で外生的に取り扱われていた制度を、個々の経済主体がプレイするゲームの均衡として描写し分析する独創的研究です。

青木先生の学界での活動を振り返る時、自らこうした研究を推進される一方、学界の

インフラストラクチャー、特に日本におけるその構築に尽力されたことを忘れることができません。日本経済研究を主な対象とする国際学術誌として *Journal of the Japanese and International Economies* を創刊されたこと、スタンフォード京都センターを設立されたこと、独立行政法人経済産業研究所の設立に参加して初代の所長となられたことなど、この面でも青木先生は多くの重要な業績を残されました。

私は、学部学生の際に青木先生とハーバード大学のスティーブン・マーグリン教授との共著論文を読んで以来、その後に経済史の研究者となって今日に至るまで、上記のような青木先生の研究全体から深い影響と大きな恩恵を受けてきました。また、ありがたいことに、1990年代以降は個人的な親交の機会をいただき、カリフォルニアや東京のレストランやラウンジで夜がふけるまで経済学、日本経済や歴史の話をしたことが懐かしく思い出されます。こうした機会の会話を通じて強く思ったことは、音楽、文学など幅広い話題に深い知識を持ちながら、常に会話の中心には経済学研究への関心があるという青木先生の姿勢です。青木先生の尽きることのない知的好奇心と真摯な研究への取り組み方からも、多くの大切なことを教えていただきました。

青木先生は古希を過ぎてからも活潑に研究を続けられ、特に近年は、数百年にわたる日本と中国の経済社会の歴史的発展に関する理論的研究に取り組んで、このテーマに関する論文を主要学術誌に発表すべく準備をされていました。そしてこの論文の改訂を、入院中のスタンフォード大学病院のベッドの上で、亡くなる直前まで続けられていました。もし急逝されることがなければ、青木先生はこのテーマを含めて今後も経済学の発展にさらに多くの本質的な貢献をされたと確信しています。

青木先生ご自身のご無念と奥様、ご令嬢様をはじめとして残されたご家族の悲しみは言葉に尽くせないものと拝察致します。青木先生は多年にわたり、類いまれな傑出した才能とリーダーシップを持つ研究者として、世界と日本の経済学界を牽引してこられました。ご逝去にあたり、青木先生の経済学界への偉大な貢献に心から感謝するとともに、青木先生の霊とご家族の方々の平安をお祈り申し上げます。

東京大学大学院経済学研究科 岡崎哲二

(5) 2015年度研究助成決定のお知らせ

11名の応募がありましたが、予算が100万円ということから3名に絞り助成することとなりました。過去にTCERから助成を受けた方、研究内容がTCERの方針と合わない可能性がある方等を除きました。

(6) 2015年度TIFO=TCERフェロースhip決定のお知らせ

応募者1名で1名採択いたしました。

2. コンファレンスご案内・報告

公1 国際的学術研究・交流事業

(1) 東アジア研究交流事業 (2015年度 NBER-TCER 東アジア経済セミナー) 報告

第26回東アジアセミナー(NBER-TCER、他共催)は、2015年6月18-19日、アメリカ合衆国サンフランシスコにおいて、Federal Reserve Bank of San Francisco をローカルスポンサーとして開催された。本年度のテーマは、“Financial Stability”であった。日本(TCER派遣)からは、植田健一 (IMF、東京大学教授) が論文発表者、須藤直 (日本銀行) が討論者として、伊藤隆敏 (コロンビア大学教授・政策研究大学院大学教授) が (Andrew Rose との共同) オーガナイザーとして参加した。全部で12本の論文が提出され、活発な議論が展開された。会議第二日目には、John Williams, President of Federal Reserve Bank of San Francisco によるスピーチ及び質疑応答が行われた。

開催報告、論文は NBER のサイトで入手可能である。

<http://conference.nber.org/confer/2015/EASE15/summary.html>

(2) 環太平洋地域研究交流事業 (2015年度アジア危機コンファレンス) 報告

2015年度環太平洋地域研究交流事業「アジア危機コンファレンス」が、2015年7月8日(水) - 10日(金)の3日間、台湾国立大学の協力を得て、台湾・台北市・台湾国立大学において APEA コンファレンスの一環として行われた。TCER は重要なスポンサーとして大会全体をサポートし、アジア環太平洋地域が抱える諸問題について、最近の理論分析の紹介や、国際貿易、国際金融、マクロ経済学、開発経済学などさまざまな観点から世界経済の安定に向けて関連テーマに関して議論を行う場を提供した (APEA 会議全体の詳細は、<http://www.apeaweb.org/confer/tw15/index.htm> で閲覧可能である)。コンファレンスには、アジア太平洋諸国の研究者を中心に世界各国から約100名の経済学者が参加し、多数の平行・セッションで重要な政策的課題を経済学の観点から活発に議論・研究交流が展開され、大変有益であった。

中国など新興国の台頭によって、2000年代の世界経済は大きな成長を遂げたものの、中進国の罨や地政学的リスクも含め、その行く末には多くの不確定要素があり、持続的な成長に向けた分析やそのための制度設計は重要な研究テーマである。とりわけ東アジア地域は、生産や国際貿易など実体経済面では世界経済に大きなプレゼンスを占めるようになった一方で、金融市場の発展はまだまだ脆弱な国が少なくなく、金融システムのあり方を含めて数多くの論争を生んでいる。また、アジアインフラ投資銀行 (AIIB) の設立に象徴されるように、これまでの世界経済の秩序の中で、実体経済面ではプレゼンスを高めている東アジア諸国がどのように関わっていくかは、重要な政策課題である。今回の会議では、アジアインフラ投資銀行 (AIIB) に関するパネル・ディスカッションも

行われ、その是非に関する活発な議論が展開されるなど、参加者の関心は非常に高かった。

また会議では、Joshua Aizenman 氏（南カリフォルニア大学教授）と八田達夫氏（国際東アジア研究センター所長）の2名による招待講演も行われた。Aizenman 氏は、「Chinese Outward Mercantilism（中国の対外的重商主義）」というタイトルで、中国の対外成長政策がこれまでの為替政策を伴う輸出主導型から外貨準備を利用した対外直接投資主導型に変化している現状に関して、さまざまなデータの紹介を交えた興味深い報告を行った。また、八田氏は、「Competition Policy vs Industrial Policy as a Growth Strategy（成長戦略としての競争政策と産業政策）」というタイトルで、成長戦略としての競争政策の重要性と産業政策の問題点に関して、日本の経験を含めてわかりやすく解説し、多くの参加者に大変好評を博した。

なお、今回の APEA コンファレンスには、TCER から、福田慎一（東京大学）、小川英治（一橋大学）、田中茉莉子（武蔵野大学）らの参加があり、大変有益な報告や討論を行った。

公2 学術研究交流促進事業

(1) 国際学術研究機関交流事業（2014年度 NERO コンファレンス）報告

2015年度 NERO コンファレンスは、2015年6月22日、パリの OECD で催され、TCER から近藤絢子（横浜国立大学）が出席した。2015年度のトピックは、「Prospects and Policies for Reviving Long-Term Growth and Reducing Inequality」で、経済成長と格差に関する全8本の研究成果が報告された。近藤は、Naomitsu Yashiro 氏の報告論文「Structural Policies and the Distribution of the Growth Dividends」の討論者として参加した。論文は以下のサイトからアクセス可能。

<http://www.oecd.org/eco/growth/prospects-and-policies-for-reviving-long-term-growth-and-reducing-inequality.htm>

会議のプログラムは以下の通り。

22 June 2015

09:00-09:15 Introduction by Catherine Mann

09:15-11:15 Round 1: How to Project Output and Inequality

Speakers:

Warwick McKibbin (ANU/CAMA): “Long-term Economic Growth Projections and Factor Shares

David Weil (NBER): “Capital, Wealth, Growth, and Inequality in the 21st Century”

Discussants:

Giuseppe Nicoletti and Nicolas Ruiz (OECD/ECO)

Patrice Ollivaud (OECD/ECO)

11:15-11:30 Break for coffee

11:30-13:30 Round 2: How to Revive Growth

Speakers:

Karl Aiginger (WIFO): "A Two-stage Strategy for Restarting Growth in Industrialised Countries"

Aida Caldera Sanchez (OECD/ECO): "Pursuing Structural Reforms in a Difficult Macro Context: What should be the Priorities?"

Discussants:

Guntram Wolff (BRUEGEL)

Jesper Hansson (NIER)

13:30-15:00 Working lunch – presentation and discussion of current/future Policy

Study Branch work

15:00-17:40 Round 3: Inequality and Growth

Speakers:

Corinne Prost (INSEE): "Impact of Future Growth on Pension Expenditures: The Effect of the Rules of Indexation"

Naomitsu Yashiro and Orsetta Causa (OECD/ECO): "Structural Policies and the Distribution of the Growth Dividends"

Federico Cingano (OECD/ELS): "Inequality, Mobility and Growth: Evidence from OECD Countries"

Boris Cournède, Oliver Denk and Paula Garda (OECD/ECO): Work in progress on "Microeconomic Costs and Benefits of Structural Reform"

Discussants:

Ayako Kondo (TCER)

David Weil (NBER)

Xavier Ragot (OFCE)

17:40-18:00 Closing Remarks

(2) TCER 定例研究会 (2015 年度 TCER 研究会) 報告

2015 年度の TCER 研究会は早稲田大学にて行われています。フェローの方はいつでも参加できます。詳細は以下のサイトをご覧ください。

<http://www.waseda.jp/fpse/winpec/laboratory/modern-political-economy/>

第1回

日 時 4月22日 (水) 16:30~18:00

場 所 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館10階 第3会議室

発表者 濱野正樹 (上智大学 経済学部 助教)

テーマ On Quality and Variety Bias in Aggregate Prices

第2回

日 時 5月19日 (火) 10:40~12:10

場 所 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館10階 第3会議室

発表者 丸山士行 (シドニー工科大学 上級講師)

テーマ Weekend Babies

第3回

日 時 5月28日 (木) 18:10~19:40

場 所 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館701号室

発表者 Jingyi Xue (Singapore Management University 助教)

テーマ Claim uncertainty and egalitarian division with wastage

第4回

日 時 6月3日 (水) 16:30~18:00

場 所 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館802室

発表者 David Pérez-Castrillo (Univesitat Autonomia de Barcelona 教授)

テーマ ON THE MANIPULABILITY OF COMPETITIVE EQUILIBRIUM RULES IN
MANY-TO-MANY BUYER-SELLER MARKETS

第5回

日 時 6月16日 (火) 10:40~12:10

場 所 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館10階 第3会議室

発表者 Andrew Wait (The University of Sydney School of Economics Associate
Professor)

テーマ “Trust, Credibility and Delegation: Evidence from Multiple Employees per
Establishment”

第6回

日 時 6月25日 (木) 18:15~19:15

場 所 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館704教室

発表者 Subhasish Dugar (カルガリー大学 准教授)

テーマ Fishy Behavior: The Nature and Extent of Dishonesty in the Marketplace

第7回

日 時 6月29日 (月) 16:30~18:30

場 所 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館10階 第3会議室

発表者・テーマ

* 16:30~17:30 *

高木悠貴 (スタンフォード大学 助教)

Local Gossip and Intergenerational Family Transfers: Comparative Political Economy of Welfare Provision

* 17:30~18:30 *

小島武仁 (スタンフォード大学 准教授)

Matching Theory and Its Recent Applications to Market Design

第8回

日 時 7月7日 (火) 10:40~12:10

場 所 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館10階 第3会議室

発表者 Alexander F. Wagner (Associate Professor, University of Zurich)

テーマ Immigration and voting for the extreme right

第9回

日 時 7月7日 (火) 17:00~18:00

場 所 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館12階1213室 (ディスカッションルーム)

発表者 花木伸行 (Aix-Marseille University 教授)

テーマ Cognitive ability and mis-pricing: Does perceived heterogeneity matter?

第10回

日 時 7月9日 (木) 16:00~17:30

場 所 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館10階 第3会議室

発表者 Arief Anshory Yusuf (Senior lecturer, The Department of Economics, Padjadjaran University)

テーマ “Low-carbon Energy & Emission Scenarios, Development Trajectories and National Level Policy Actions in Indonesia”

第11回

日 時 7月15日 (水) 17:00~18:30

場 所 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館10階 第3会議室

発表者 今井 晋 (シドニー工科大学准教授)

テーマ Identification and Estimation of Differentiated Products Models using Market Size and Cost Data.

第12回

日 時 7月18日 (土) 14:00~17:30

場 所 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館406教室

発表者・テーマ

* 14:00~15:00 *

◆ 高見典和 (一橋大学経済研究所 専任講師)

◆ 「経済学史における経済学方法論の意義：講義と研究」

* 15:10~16:20 *

- ◆ 原谷直樹（群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部 准教授）
- ◆ 「存在論はなぜ経済学方法論の問題になるのか」

* 16:20~17:30 *

- ◆ 長津十（ヘルシンキ大学TINT（Academy of Finland Center of Excellence in the Philosophy of the Social Sciences） Postdoctoral Research Fellow）
- ◆ 「科学哲学の方法論：サーベイ実験とエスノグラフィーで経済学への理解が深まるか？」 ”The methodology of philosophy of science in practice: Can survey experiments and ethnography help us understand economics (and economists)?”

（3）マイクロ経済分析事業（2015年度TCERマイクロコンファレンス・DCコンファレンスとの共同開催）ご案内

2015年度のTCERマイクロコンファレンスは、第21回ディセントラライゼーション・コンファレンス(DC)との共催で、10月12日（月・祝日）に慶応大学にて開催されます。日本経済学会秋季大会の翌日の開催です。

本コンファレンスでは、マイクロ経済学の理論的アプローチに関する論文を主たる対象に、各方面からの投稿論文を募集しています。一般均衡、ゲーム、社会的選択、メカニズム・デザイン、経済動学等の経済理論の論文はもちろんのこと、国際経済、公共経済、労働経済、金融、産業組織、企業組織等の応用分野で理論モデルに基づく論文の投稿も歓迎します。

報告希望の方は、報告希望論文を電子メールにて京都大学経済研究所・部門事務室の西村法子 noriko@kier.kyoto-u.ac.jp までお送りください。

* メールのお題を「DC投稿論文」としてください。

* メールの中に、論文タイトル・発表者の名前・所属を入れてください。

締め切り：8月30日（日）

（論文選考結果は、締め切りから約1週間後に通知いたします）

コンファレンスのウェブサイトは以下の通りです。参加申し込みの詳細はこちらをご覧ください。

<http://www.dc.kier.kyoto-u.ac.jp/21stDCConference.htm>

プログラム委員

梶井厚志（京都大学）

グレーヴァ香子（慶應義塾大学）

近郷匠（福岡大学）
坂井豊貴（慶應義塾大学・オーガナイザー）
関口格（京都大学）
三浦慎太郎（神奈川大学）

（４）マクロ経済分析事業（2015年度 TCER マクロコンファレンス）ご案内

1999年以來、毎年開催されております第17回マクロ・コンファレンスが下記の通り開催されます。多数のご応募をお待ち申し上げます。

【開催日時】

11月7日（土）、8日（日）

【開催場所】

一橋大学国立キャンパス・マーキュリータワー

【資金提供者】

TCER（東京経済研究センター）、
慶應義塾大学経済学部、
東京大学「長期デフレ」プロジェクト、
一橋大学経済研究所経済社会リスク研究機構
大阪大学社会経済研究所

【共催・代表】

一橋大学経済研究所 阿部修人
大阪大学社会経済研究所 小野善康
慶應義塾大学経済学部 櫻川昌哉
東京大学大学院経済学研究科 渡辺努

※今年の報告申し込みは8月2日で締め切りました。

（５）特別プロジェクト「アベノミクス」報告

TCER（東京経済研究センター）では、2013年度より特別プロジェクトとして「アベノミクス」を立ち上げています。第2次安倍内閣による「3本の矢」を柱とする経済政策「アベノミクス」は、その政策目標をデフレ脱却と経済回復と位置づけ、依然として海外でも高い注目を集めています。ただ、その開始から3年余りが経つなか、その効果には賛否両論があるだけでなく、足元ではさまざまな問題点も明らかになりつつあります。

TCERでは学術的観点からこの問題を取り上げ、TCERフェローを中心に研究を進めてまいりました。3年目の今年度は、Journal of the Japanese and International Economies (JJIE), Volume 37 (September 2015)で、昨年3月に行われたコンファレンスの報告論文を

特集号 *Abenomics: A New Unconventional Economic Policy Regime in Japan* として公刊すると同時に、本年 3 月に行われたコンファレンスの成果についても、アジア経済研究所(IDE-JETOR)の協力を得て、WILEY-BLACKWELL が出版している *レフェリー・ジャーナル The Developing Economies (DE)*, Volume 54, Number 1 (March 2016) に特集号として公刊する予定です。

JJIE の特集号には、「アベノミクス」の「3 本の矢」が日本国内経済に与えた影響を分析した 6 本の研究論文を収録しました。一方、DE の特集号には、「アベノミクス」など非伝統的経済政策が新興国など対外経済に与えた影響を分析した 5 本の研究論文を収録する予定です。いずれの特集号も、学術的観点から「アベノミクス」など非伝統的経済政策の意義を分析し、興味深い結果を導いています。

編集後記

連日の厳しい暑さも少しだけ和らいでまいりましたが皆様いかがお過ごしでしょうか。2015 年度 1 号目のニューズレターをお送りいたします。お忙しい中、執筆下さった理事やコンファレンス主催者の方々、とりわけ青木先生の追悼文をご寄稿くださった岡崎先生に感謝申し上げます。今後とも TCER をどうぞよろしく願います。

(近藤)

Newsletter に関するご意見やご感想は代表理事小西秀樹 h.konishi@waseda.jp
または総務理事近藤絢子 akondo@ynu.ac.jp までご連絡下さい。

=====

公益財団法人 東京経済研究センター

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-7-10 山京ビル本館 703 号室

Tel & Fax 03-3239-2524 Email: tcer@mbs.sphere.ne.jp